

令和7年度
地域幸福度（Well-Being）指標アンケート（個別調査）結果

調査概要

調査概要

今後の政策立案の基礎資料として地域幸福度（Well-Being）の現在地を確認するため、国が行う全国調査とは別に、市民を対象とした姫路市の個別調査を実施するもの。

アンケート調査

調査名：令和7年度地域幸福度（Well-Being）指標アンケート

調査方法：Web回答（自治体アンケート調査支援システム）

周知方法：姫路市公式LINEアカウントによる配信

子育て応援アプリ「ひめっこ手帳」による配信

電子通知サービス「SmartPOST」による配信

調査期間：令和7年12月22日～令和8年1月12日

アンケート設問

標準モデル（50問）：国が実施している全国調査の設問

地域における幸福度・生活満足度（4問）

生活環境（27問）

地域の人間関係（10問）


自分らしい生き方（9問）

姫路市独自設問（11問）：おもに子育て、経済・産業分野に関する設問を追加

生活環境（子育て、地域行政に関する7問）


地域の人間関係（地域とのつながりに関する2問）

自分らしい生き方（雇用・所得、事業創造に関する2問）




みなさまのお声をお聞かせください！

地域幸福度(Well-Being)アンケート ご協力 の お 願 い



アンケートへのご回答はこちらから（リンクまたは二次元コード）
<https://form.well-being.digital.go.jp/ap/282014-himeji/well-being-survey-r7/rev2/ad400>



姫路市では、市民のみなさまからいただいたお声を第一に、市民サービスのさらなる向上を目指しています。市民のみなさまが日頃感じておられる「暮らしやすさ」や「幸福感(Well-Being)」をお聞きすることで、姫路市の地域特性を把握し、これからのまちづくりに役立てたいと考えています。みなさまの貴重なご意見をお待ちしております！

所要時間 約 10 分

※ 地域幸福度(Well-Being)指標は、国が進める「デジタル田園都市国家構想」においても活用が推奨されています。

受付期間：12/22(月) から 1/12(月) まで

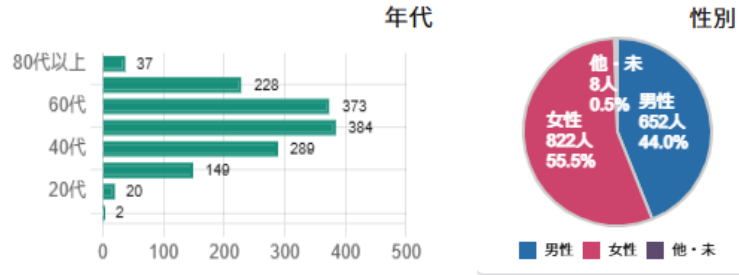
【アンケートについて】
このアンケートは、デジタル庁が開発した自治体アンケート調査支援システムを利用しています。このアンケートでは個人情報収集は行っておりませんので、どなたがどのような内容を書かれたのか、姫路市も把握することはできません。
【回答内容について】
お答えいただいた内容は、姫路市の地域幸福度(Well-Being)指標として集計し、デジタル庁のホームページ上に結果が公開されます。過去に実施した姫路市の地域幸福度指標調査の結果もこちらのページで確認できますので、ぜひご覧ください。
▶ デジタル庁「地域幸福度指標ダッシュボード」(<https://well-being.digital.go.jp/dashboard>)

お問い合わせ先：姫路市デジタル戦略室（079-221-2393）

調査結果：概観

回答者の属性

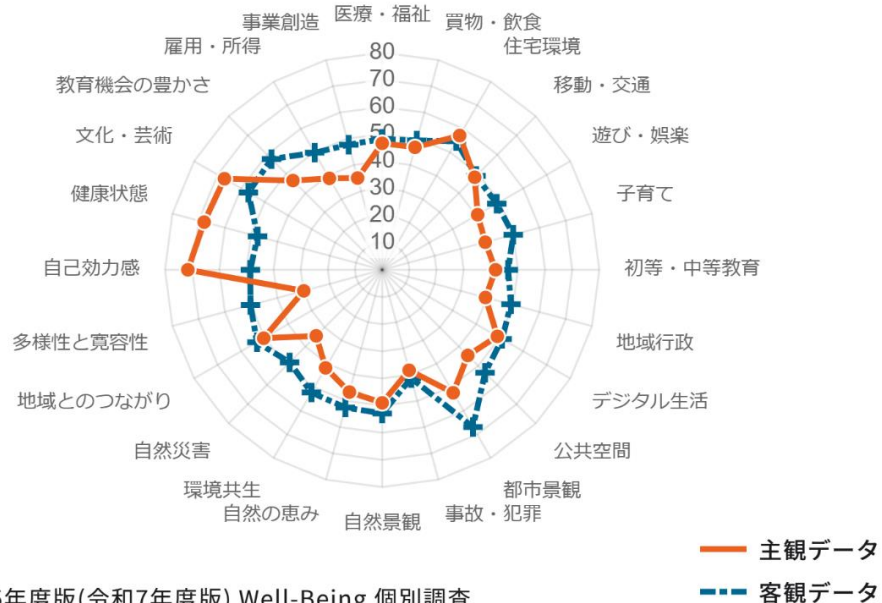
回答者数：1,482人



調査結果概要

令和6年度調査結果と比較し、ほとんどすべての項目において主観指標のスコアが改善。一方、依然として多くの項目で、客観データが市民の実感を示す主観データを上回る傾向。

カテゴリー別



カテゴリ・評価指標	主観データ偏差値	客観データ偏差値	主観－客観
医療・福祉	46.6	48.2	-1.6
買物・飲食	46.7	49.3	-2.6
住宅環境	57.1	54.7	2.4
移動・交通	48.2	48.9	-0.7
遊び・娯楽	40.6	48.7	-8.1
子育て	39.3	50.0	-10.7
初等・中等教育	41.8	46.4	-4.6
地域行政	39.4	49.1	-9.7
デジタル生活	49.0	51.0	-2.0
公共空間	44.6	53.6	-9.0
都市景観	52.3	66.9	-14.6
事故・犯罪	38.3	41.3	-3.0
自然景観	49.0	52.9	-3.9
自然の恵み	46.6	52.5	-5.9
環境共生	41.7	52.2	-10.5
自然災害	34.4	48.2	-13.8
地域とのつながり	50.4	53.3	-2.9
多様性と寛容性	29.9	50.2	-20.3
自己効力感	71.6	48.6	23.0
健康状態	67.9	47.5	20.4
文化・芸術	67.1	56.9	10.2
教育機会の豊かさ	46.5	57.7	-11.2
雇用・所得	38.9	49.8	-10.9
事業創造	35.0	47.7	-12.7

※赤字：偏差値50を下回る項目

青字：「主観－客観」の数値がマイナス10以下の項目

【出典】2025年度版(令和7年度版) Well-Being 個別調査

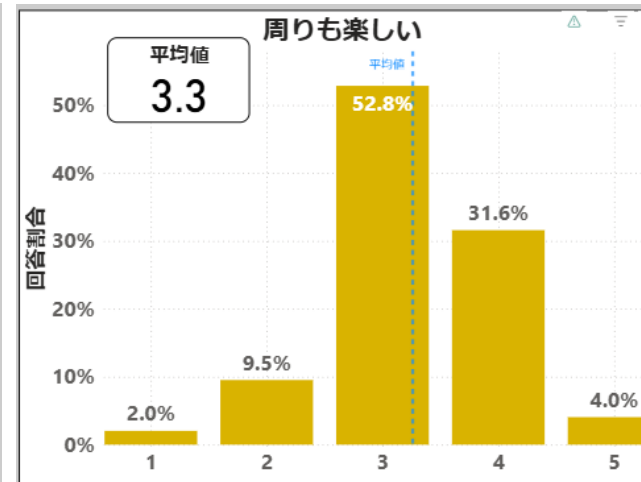
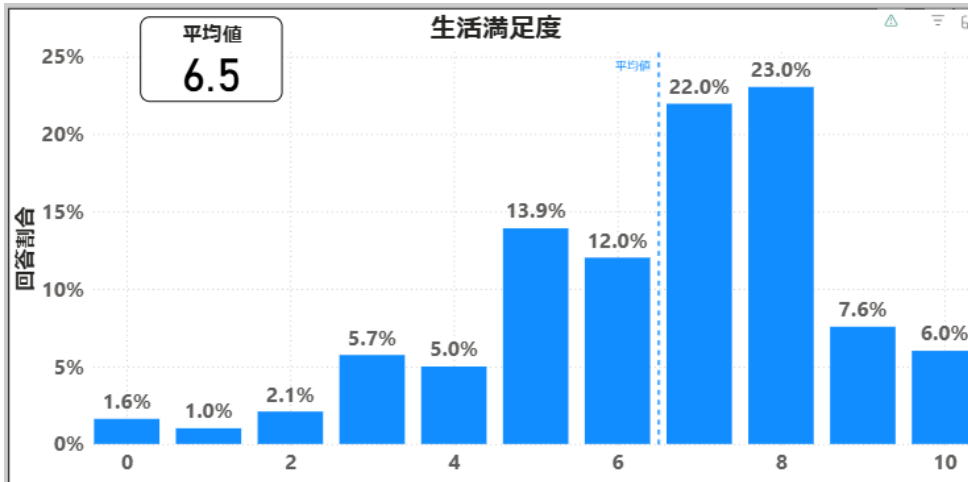
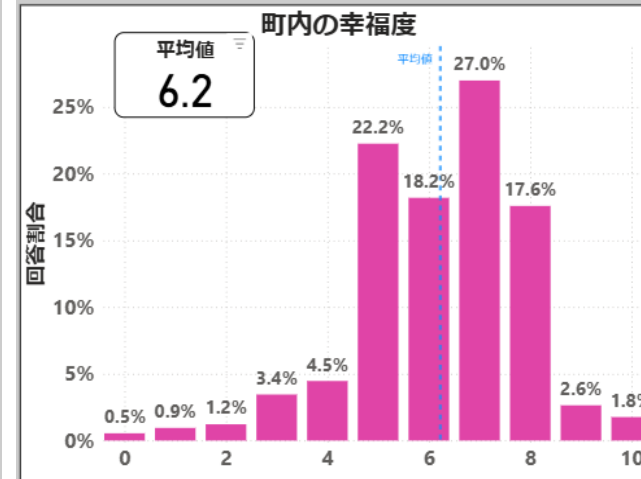
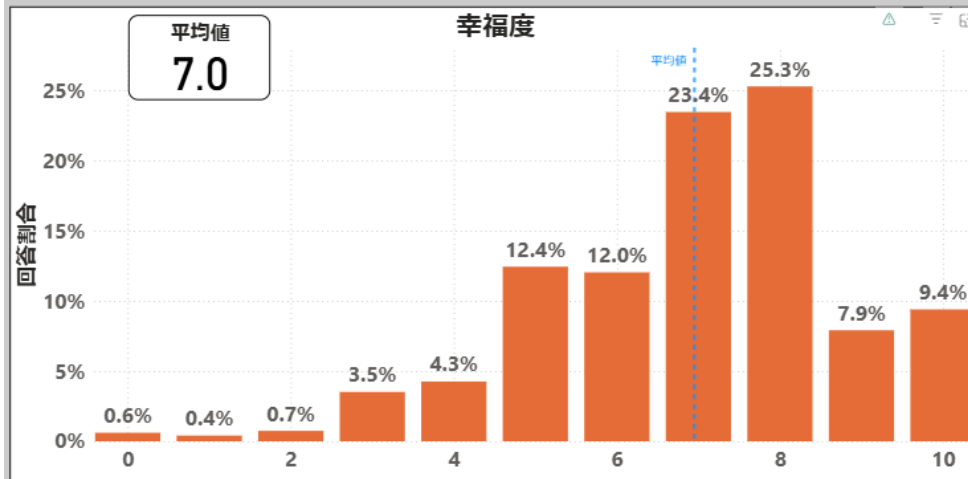
※出典：デジタル庁 Well-Being指標ダッシュボード (<https://well-being.digital.go.jp/dashboard>)

調査結果：統合指標

地域生活における幸福度は、全国平均と比較してやや高い（全国の平均値：6.4）。また、町内の幸福度及び生活満足度は、全国平均と概ね同等レベルである。

※ 各設問の回答形式は、0～10の11件法（例：現在、あなたはどの程度幸せですか？→「とても幸せ」を10点、「とても不幸」を0点）

※ 「周りも楽しい」の回答形式は5件法（「非常にあてはまる」=5、「全くあてはまらない」=1）



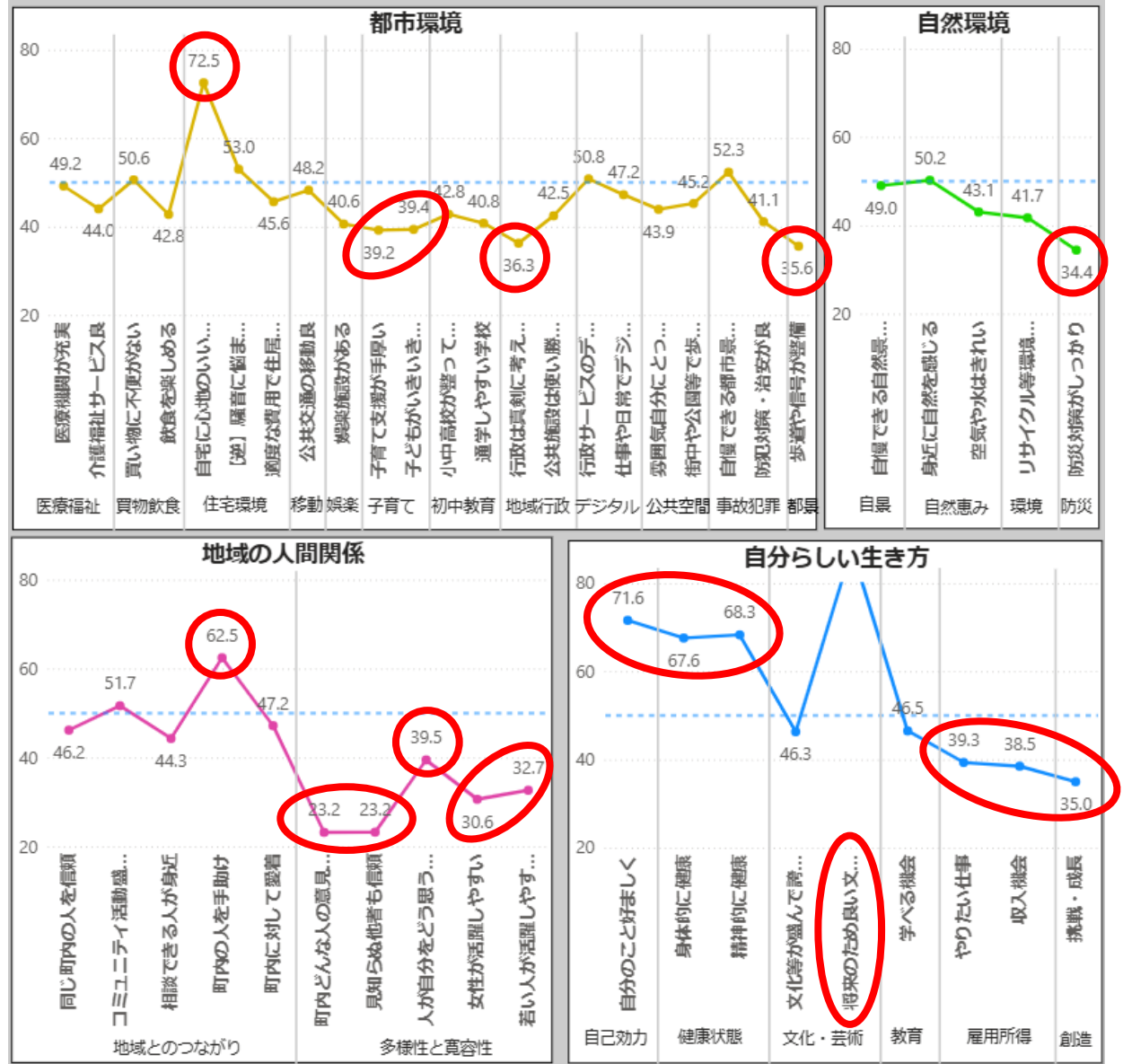
※出典：SCI-J ウェルビーイング指標ダッシュボード（個別調査）

調査結果：主観指標

主観指標を構成する各項目について示したもの。
特に偏差値が高い項目と低い項目がそれぞれ存在する。

- 高い項目
 - 「自分らしい生き方」のうち
 - 『将来生まれてくる世代のために、良い環境や文化を残したい』
 - など
- 低い項目
 - 「地域の人間関係」のうち
 - 『町内にはどんな人の意見でも受け入れる雰囲気がある』
 - 『私は見知らぬ他者であっても信頼する』
 - 『女性が活躍しやすい』
 - 『若い人が活躍しやすい』
 - など

→ 市民のニーズを正確に捉えた政策が実施できていない可能性あり。
ただし、地域特性など政策以外の要因が影響している可能性も排除できない。



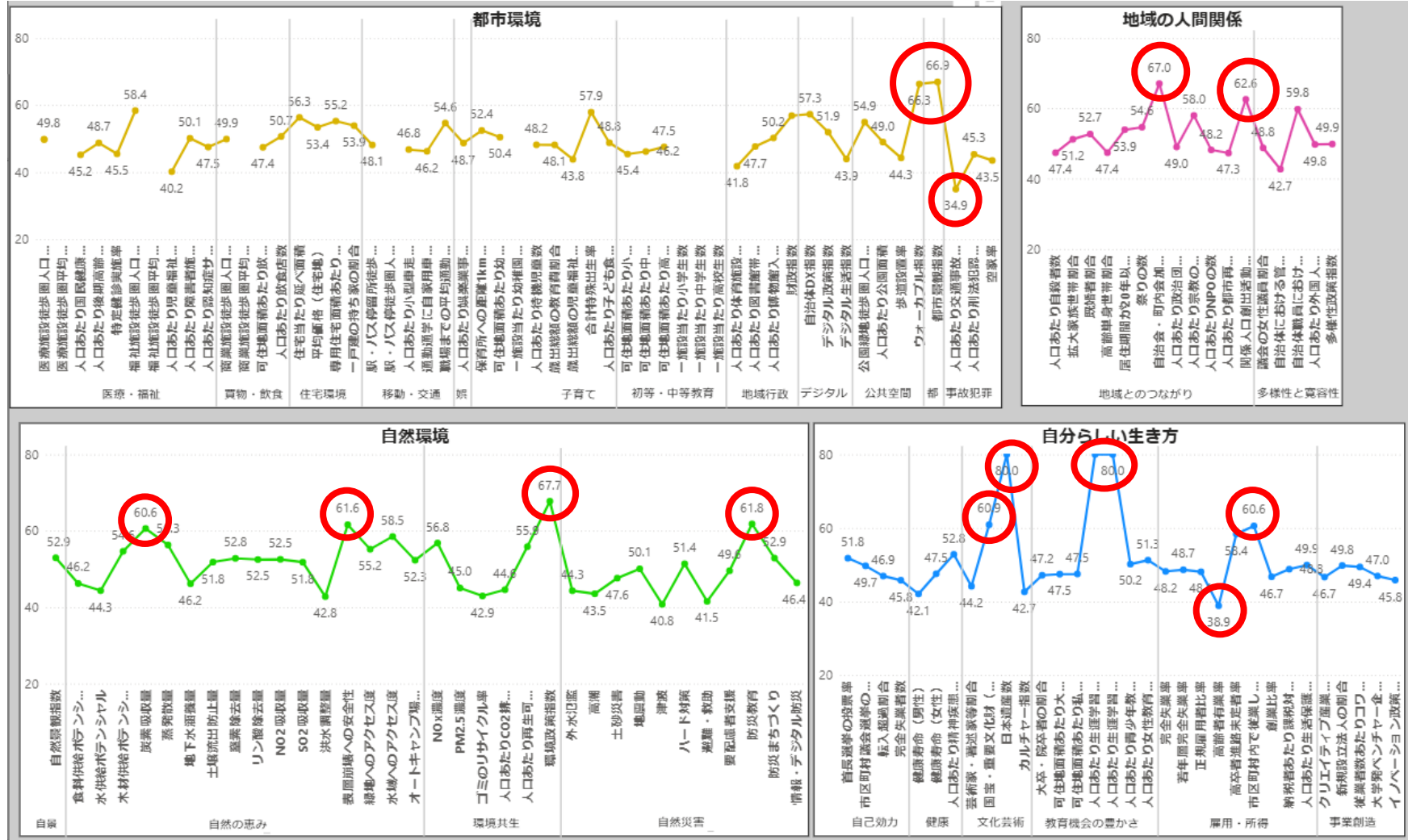
※出典：SCI-J ウェルビーイング指標ダッシュボード（個別調査）

調査結果：客観指標

客観指標を構成する各項目について示したものの、全体的には、概ね極端に悪い項目は見当たらないが、突出している項目も少ない。

- 高い項目
「自分らしい生き方」のうち『日本遺産の数』
『人口あたり生涯学習講座数』
など
- 低い項目
「都市環境」のうち『人口あたり交通事故件数』、
「自分らしい生き方」のうち『高齢者有業率』
など

→ほとんどすべての因子において、改善及び向上の余地あり。
地域特性に起因する優位性（日本遺産、自治会加入率）や政策的に力を入れてきた分野（ウォーカーブル、都市景観、生涯学習等）は指標にも反映されている。



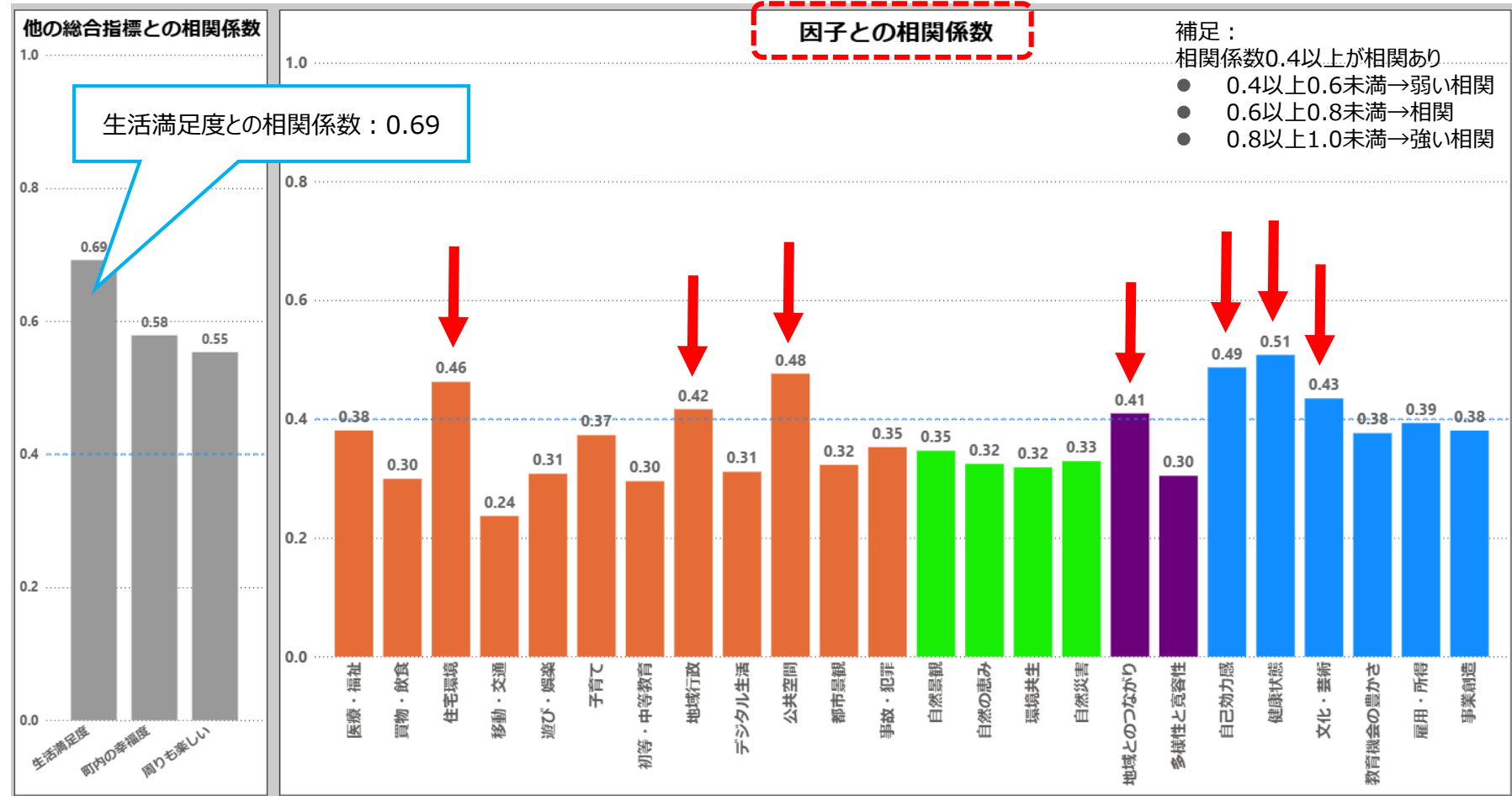
※出典：SCI-J ウェルビーイング指標ダッシュボード（個別調査）

相関性分析（幸福度）

市民の幸福度と、各因子との相関性を分析したものの。

- 幸福度と相関係数0.4以上の項目は、7項目（住宅環境、地域行政、公共空間、地域とのつながり、自己効力感、健康状態、文化・芸術）
- 生活満足度との相関係数も高い水準

→ 幸福度自体が、生活満足度と相関がある。幸福度を高めるためには、生活満足度をどう高めていくかが課題。地域行政や公共空間など、行政が直接的に携わる分野との相関関係にも着目する必要がある。



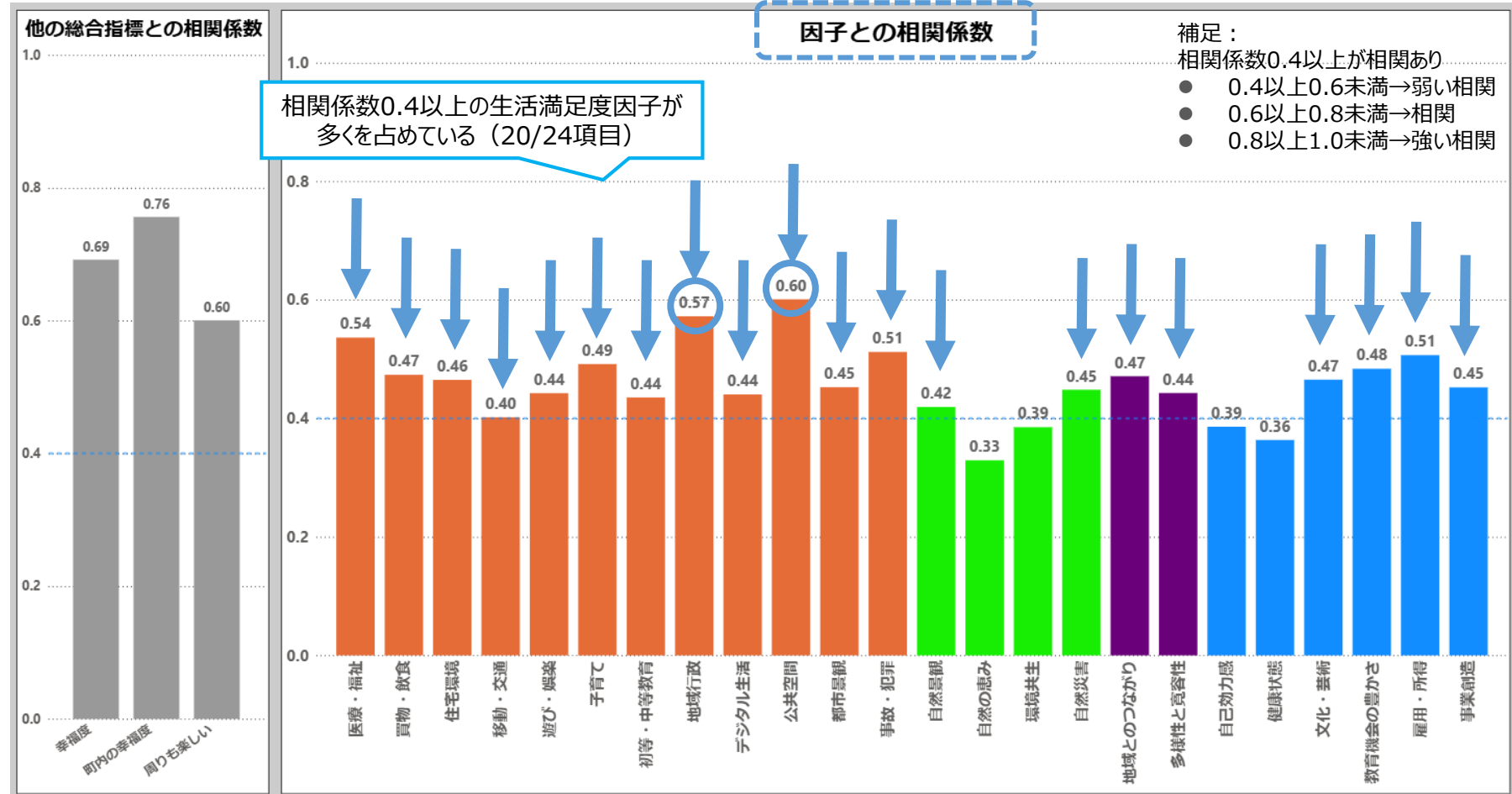
※出典：SCI-J ウェルビーイング指標分析用ツール（個別調査）

相関性分析（生活満足度）

生活満足度と各因子との相関性を分析したものの。

- 生活満足度と相関があると思われる因子（相関係数0.4以上）が非常に多い（24項目中20項目）

→こちらも、地域行政や公共空間との相関性が比較的高く、その2つが「幸福度と生活満足度の両方に効きやすい」状況と推察される。



※出典：SCI-J ウェルビーイング指標分析用ツール（個別調査）

SWOT分析

主観指標と客観指標をもとに、市のSWOT分析を行ったもの。

赤い枠で囲った因子は幸福度との相関性が高く、青い枠は生活満足度との相関性が高いものである。

→市民の幸福度向上のため、本市の特性に応じた戦略的な政策の実施が肝要。

	T (脅威)	O (機会)
S (強み)	<p>(主観50以上、客観50未満)</p> <ul style="list-style-type: none"> 健康状態 自己効力感 	<p>(主観と客観の偏差値50以上)</p> <ul style="list-style-type: none"> 住宅環境 都市景観 文化・芸術 地域とのつながり <p>補足</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 赤色：幸福度の相関係数0.4以上 ● 青色：生活満足度の相関係数0.4以上
W (弱み)	<p>(主観と客観の偏差値50未満)</p> <ul style="list-style-type: none"> 移動・交通 医療・福祉 買物・飲食 初等・中等教育 遊び・娯楽 地域行政 <ul style="list-style-type: none"> 事故・犯罪 自然災害 雇用・所得 事業創造 	<p>(主観50未満、客観50以上)</p> <ul style="list-style-type: none"> デジタル生活 子育て 公共空間 自然景観 自然の恵み 環境共生 <ul style="list-style-type: none"> 教育機会の豊かさ 多様性と寛容性 <ul style="list-style-type: none"> 都市環境の設問 自然環境の設問 地域の間関係の設問 自分らしい生き方の設問



住むほどに
好きが深まる
姫のまち